

プリントテクノロジーのさらなる挑戦!

I GAS2015

I GAS2015(国際総合印刷機材展)が9月11・16日の6日間、東京ビッグサイト東館全ホールで行われた。開会式の詳細は9月17日号掲載。今回のテーマは「Print+Innovation!」。

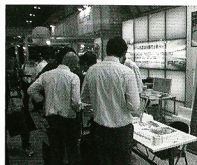
「Print+Innovation!」は、オンラインプリントテクノロジーのさらなる挑戦。出展各社による厚紙対応のデジタル印刷機などが注目を集めたほか、紙器・軟包装分野の発展も少なくなかった。展示だけでなく、各種セミナーやセッションも数行われ、印刷関係者(ブランドオーナー企業)の想が者らが登壇し、販機を迎えた印刷の今後の方向性についてなど、率直な意見交換がされた。主催の印刷機材団体協議会によると、6日間の来場者数は5万6533名。今回は3年後の2018年に開催される、紙器・紙工関連メーカーを中心に出展内容を紹介する。

【次号について】

6日間で5万6533人来場

ACS

ACSは、サンプルやコストパフォーマンスの豊富なデモ運送の高さを強調した。転を中心に、加工精度「ASZ1209」



は、日本製で故障が少ない高剛性や、従来機2倍の高性能を誇るサンプル機。

最近では試験管を立てるウレタンの穴開けなど、穴の形状や深さが少しでも

ズレると試験管が傾き破損してしまうといった、精密性が要求される製品での加工事例がある。デモ運転では、わざと板紙パッケージを傾けて配置し、CCDカメラで傾きを認識させ自動修正してカットし認識精度を解説したり、通常はルーターで削り切るアルミ複合板を刃で切断し、切断能力を証明。最新の搬送装置も付加され、更

追求めた。

同時に展示のAS機では、10×10°角のA段シートに100個以上の微細な穴開けや、複面段ボールのA式ケース切断加工などを実演。来場者からは「(加工されたサンプルを手にとって)サンプル機でここまで出来るのか」「加工サイズの割には機械が省スペース」「カメラが良いので、印刷紙器加工に強い」など、両機種について高い関心の声が聞かれた。